

孔佩群

コン・ペイチユン

足利学校職員

栃木県
在住14年



日本最古の学校で『論語』に夢中になる

1977年、中国広東省生まれ。広東教育学院を卒業後、6年間教育に携わる。2001年、研修のため来日し、その後、夫に伴い日本に定住。現在は、栃木県足利市教育委員会の職員であり、同教育委員会が管理する日本最古の学校「足利学校」で『論語』の研究とガイドの仕事をしている。

孔佩群は、孔子（春秋時代の中国の思想家、哲学者、儒家の始祖）の第76代の末裔だという。原籍は山東省。広東省に生まれ育ち、広東教育学院を卒業してから6年間、教育に携わった。2001年に日本へ渡り、現在は栃木県足利市教育委員会が管理する「足利学校」で、中国の古典『論語』の研究と解説ガイドの仕事をしている。

その遺跡が国の史跡にも指定されている足利学校で彼女が取材したのは、まさに年に1度の孔子祭「釋奠」

が執りおこなわれる日だった。孔佩群のガイドのもと、この「日本最古の学校」でおこなわれる伝統儀式を參觀したのである。インタビューは、足利学校の歴史についての解説から始まった。

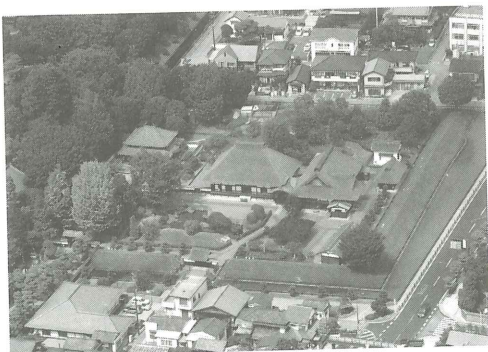
日本最古の大学——足利学校

在日中国人を含めて、中国人で足利学校を知る人は多くありません。中国の観光界、国学（中国の伝統

的学問）界においても、それに関する記載は少ない。けれども足利学校は、確かに日本で重要な歴史的地位を占めています。それはいわば「日本の教育の発祥地」ですし、「日本最古の総合大学」ともいわれます。しかも足利学校が初期のころに行った教育は、ほとんどが中国の国学でした。

1549年、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師、フランシスコ・ザビエルは「日本国中最も有名な坂東の大学」として、足利学校を最初に世界に伝えました。

足利学校の遺跡は、ここ栃木



足利学校の全景を見下ろす（写真提供：孔佩群）

県にあります。創建年代は不詳で、奈良時代の国学の遺制だという説、平安時代に小野篁が創建したという説、鎌倉時代に足利義兼が建てたという説などがあります（足利氏第2代当主の義兼が、一族の学問所として興したとする説が有力とされている）。

足利学校は創建当時、さほど有名ではありませんでした。室町時代中期の武将で関東管領に就いた上杉憲実（1411-1466年）は、戦乱の苦しみに疲れ果て、そのため学校という平和な学問の世界にあこがれて、足利学校の再興を決意しました。鎌倉円覚寺の僧で、易学の権威でもあった快元を招き、初代の座主（校長）に任じました。こうして足利学校はたちまち日本の易学の中心となったのです。

このほかにも上杉憲実は、書物や領田（学校領）を寄付し、「学規三条」（校則）を制定するなど、足利学校の再興に努めました。その隆盛期には、日本各地からの学徒が「3000人余り」に達したといわれます。彼らはここで、孔子の教えに基づく「儒学」の経書「四書」「五経」や「老子」「列子」「史記」「文選」